

Citation: Barth J, Critchley J, Bengel J. Psychosocial interventions for smoking cessation in patients with coronary heart disease. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2008, Issue 1. Art. No.: CD006886. DOI: 10.1002/14651858.CD006886.

CRG名: Heart

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 3 October 2007

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 1; New

背景: 喫煙を止めれば心イベント後の予後が改善されるが、多くの患者は喫煙を続けている。このため、禁煙支援の改善が早急に求められる。

目的: 冠動脈性心疾患(CHD)患者の禁煙支援のために、行動療法、電話サポート、自助介入などの社会心理学的介入の有効性を評価する。

検索戦略: Cochrane Central Register of Controlled Trials(2003年第2号)、MEDLINE、EMBASE、PsycINFOおよびPSYINDEXをデータベース開始時から2003年8月まで検索した。参照文献をクロスチェックし、選択した雑誌とシステマティック・レビューについてはハンドサーチによって結果を補完した。

選択基準: CHD患者を対象とし、最低6か月間追跡していたランダム化比較試験(RCT)。研究の初回選択後に、方法論に不備(高い脱落率など)のある3件の試験は除外した。

データ収集と分析: 可能な場合はITT解析に従って禁煙率を算出し、可能でない場合は追跡結果のみについて算出した。

主な結果: 選択基準に合致した16件のRCTを見出した。介入には、行動療法によるアプローチ、電話によるサポート、自助教材が使用されており、禁煙のみ、または提唱したいくつかの危険因子のいずれかに焦点を当てていた。試験の大半は、CHD、主に心筋梗塞の高齢の男性患者を対象としていた。全体として、6か月から12か月後に得られた介入の禁煙効果は肯定的なものであったが(オッズ比(OR)1.66、95%信頼区間(CI)1.25~2.22)、試験の間にかかなりの不均一性があった。追跡時の喫煙状態の評価については、検証されている評価法を用いた研究(OR 1.44、95%CI 0.99~2.11)は検証されていない評価法を用いていた試験(OR 1.92、95%CI 1.26~2.93)よりも有効性が低かった。研究を介入戦略および介入強度によってクラスター化した。クラスター化によって不均一性は低下したが、多くの試験で2つ以上の介入法が用いられていた。異なる戦略に対するORは同様であった(行動療法ではOR 1.69、95%CI 1.33~2.14。電話によるサポートではOR 1.58、95%CI 1.28~1.97。自助ではOR 1.48、95%CI 1.11~1.96)。介入強度が強くなれば、禁煙率は上昇したが(OR 1.98、95%CI 1.49~2.65)、短時間の介入は有効であるとは思われなかった(OR 0.92、95%CI 0.70~1.22)。2件の試験で長期におよぶ追跡が行われていたが、5年後には利益が全くみられなかった。

レビューアの結論: 社会心理学的な禁煙介入は、十分な期間にわたって施行された場合は、1年後の禁煙促進に有効である。今後の研究では、追跡期間をさらに長くし、その上で、社会心理学的介入の様々な戦略を比較すべきであり、あるいは薬物療法(ニコチン補充療法など)に社会心理学的介入戦略を追加した併用法を薬物療法単独と比較すべきである。

(監訳 澤村匡史)

翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版

